

付着生物ラーバ情報

キヌマトイガイラーバが増加した海域があります

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは奥内沖、野辺地沖で1月20日にそれぞれ0.8個体/m³、久栗坂沖で1.1個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは奥内沖、野辺地沖で1月13日にそれぞれ28.3個体/m³、14.1個体/m³、1月20日にそれぞれ10.0個体/m³、17.2個体/m³、久栗坂沖、川内沖でそれぞれ25.6個体/m³、63.3個体/m³見られました(表1)。

(3) キヌマトイガイ (通称：コメガキ)

ラーバが野辺地沖で1月13日に6.3個体/m³、1月20日に0.8個体/m³、川内沖で221.1個体/m³見られました(表1、図3)。

(4) ミネフジツボ

付着直前のラーバが川内沖で3.1個体/m³見られました(表1)。

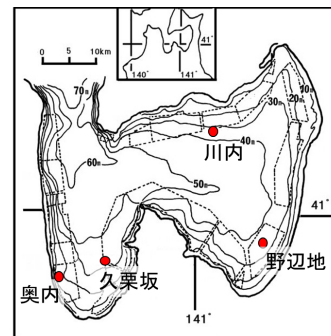


図1 付着生物ラーバの調査地点

表1 ラーバの出現状況 単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	ミネフジツボ
奥内沖	R7.1.13	0.0	0.0	28.3	0.0
	R7.1.20	0.8	0.0	10.0	0.0
久栗坂沖	R7.1.21	1.1	0.0	25.6	0.0
野辺地沖	R7.1.13	0.0	6.3	14.1	0.0
	R7.1.20	0.8	0.8	17.2	0.0
川内沖	R7.1.21	0.0	221.1	63.3	3.1

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層水温は西湾で9～11℃台、東湾は5～8℃台となっています。

10月以降のラーバ累積出現数は、奥内沖で18.4個体/m³、久栗坂沖で11.3個体/m³、野辺地沖で11.7個体/m³と前回(1月5、6日調査)より増加し、付着数が多くなる目安である5.0個体/m³より多い状況です。ラーバが多い海域では大量のユウレイボヤが付着し、出荷時期に作業効率が低下する可能性があります。

(2) ムラサキイガイ

秋から冬生まれのラーバはほとんど付着しないことが分かっています。

(3) キヌマトイガイ

ラーバが著しく増加した海域では今後大量付着する可能性があります。

(4) ミネフジツボ

例年、1月下旬から2月にラーバ出現のピークを迎えることから、今後増加する可能性があります。

3 へい死が続いている養殖施設管理の注意点

ホタテガイの調子が悪く、へい死が続いている場合、生死確認やネット移動など貝に負荷をかけると異常貝が増え、さらにへい死する危険性があるので、養殖施設を動かさないようにしましょう(図4)。

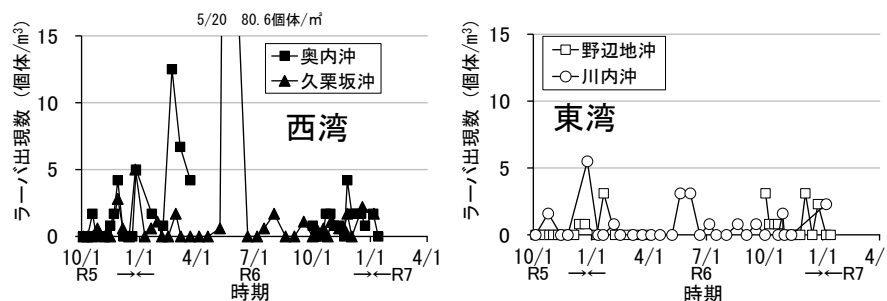


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(令和5年10月～令和7年1月)

・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

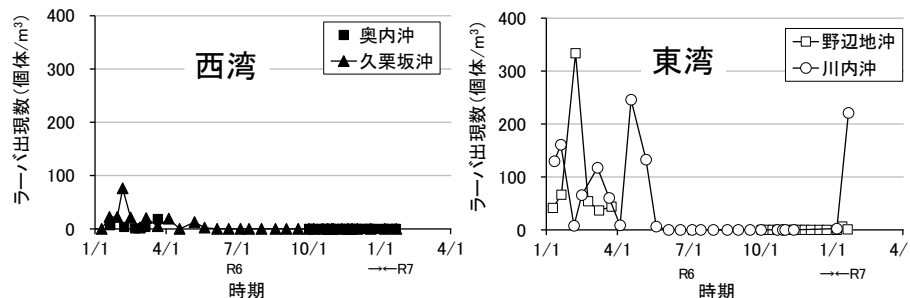


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(令和6年1月～令和7年1月)

・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾915個体/m³、東湾4,483個体/m³

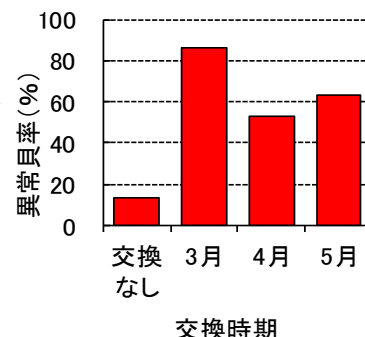


図4 半成貝のネット交換によるホタテガイの異常貝率(西湾で平成29年6月測定)

